

軟骨を再生治療

変形性膝関節症の再生医療のイメージ



変形性膝関節症

(東海大資料を基に作成)

東海大学医学部付属病院は、進行性で治療が難しい関節の変形疾患「変形性膝関節症」の患者を対象とした軟骨の再生治療を先進医療として実施する。整形外科の佐藤正人医師

東海大

らが実施するもので、厚生労働省が先進医療としての実施を認めた。同大によると、軟骨欠損に対しては世界初の細胞シートを用いた再生医療という。細胞シート移植の治療効果と安全性を調べる。

細胞シート利用

治療ではまず検査で適性を判断し、患者から関節組織を採取する。採取された組織から軟骨細胞シートを作製し、軟骨が欠損した部分へ移植する。

診察や検査などの通常の治療と共通する部分は保険適用だが、細胞シートの作製は保険外で移植費用は約400万円となっている。変形性膝関節症は、世界的な高齢化とともに患者数増加が懸念されており、根治的な治療法開発が求められている。